平成27年度版『小学生の書写』検討の観点と内容の特色

観点	検討の観点から見た内容の特色	具体例
1　目標・程度		
(1)　教育基本法・学習指導要領への対応	教育基本法に示された教育の目的および教育の目標に即した内容となっている。 学習指導要領の指導事項を全て取り上げて教材を編成し，学習の仕方がわかるように工夫している。 書写技能の習得のみならず，伝統的な言語文化に親しみ，理解を深めることができるように配慮している。	●伝統的な言語文化に親しむ例としては，書きぞめ（全学年），俳句を短冊に書く活動（5年），短歌や百人一首，近代文学作家の原稿や手紙にふれる教材（6年），文字の由来について示した教材（6年）など。
(2)　発達段階への配慮	児童の発達段階と当該学年の指導目標・指導内容を考慮して，それぞれの段階に応じて効果的な学習活動ができるように，教材の構成を工夫している。	●低学年：硬筆の基礎・基本を重視している。 ●中学年：毛筆の基礎基本の育成と，毛筆学習の硬筆への活用を図っている。 ●高学年：相手や目的に応じた書き方を考え，判断しながら書く力をつけようとしている。
(3)　内容の程度	硬筆・毛筆の導入をていねいに扱っている。その後も，硬筆・毛筆とも細かく段階を刻み，全ての児童が抵抗なく着実に学習できるように配慮している。	●硬筆の導入は1年 p.3-7。 ●毛筆の導入は3年 p.1-7。
2　組織・配列		
(1)　指導の系統	文字を書く基礎となる姿勢や筆記具の持ち方は，全学年で取り扱っている。 硬筆・毛筆とも，点画や一文字の書き方から，文字群の書き方へと，系統的に学習できるように教材が配置されている。 そのほか，「発展的な学習内容」の教材を第2学年と第6学年に設定し，児童の興味や関心に応じて学習できるようにしている。	●硬筆は，低学年では字形や点画の書き方と筆順を，中学年では字形の整え方，文字の大きさや配列を系統的・段階的に取り上げ，高学年では目的に応じた書き方ができるようにしている。 ●毛筆は，中学年から高学年にかけて，点画の書き方や字形・筆順，文字の大きさや配列を系統的・段階的に取り上げ，高学年では目的に応じた書き方ができるようにしている。 ●「発展的な学習内容」は，2年 p.2 と6年 p.23 に設定。
(2)　硬筆と毛筆の関連	硬筆指導と毛筆指導のそれぞれの特徴を生かし，それらの有機的な関連が図られている。	●中学年では，毛筆で文字を大きく書くことにより書字のポイントを理解し，それを硬筆で書いて確かめる活動を，学習過程の中に位置づけている。 ●高学年では，適切な文字の大きさや配列について，まず硬筆を通して考え，それを毛筆で確かめて，さらに硬筆に生かす学習過程を設定している。
3　内容の選択		
(1)　基礎・基本の重視	書字の基礎となる手指や腕の運動をていねいに取り上げて，児童が体得できるように配慮している。姿勢や筆記具の持ち方については，図や写真を活用してわかりやすく示している。 点画の書き方などの基本的なことがらは，一つずつていねいに，段階的に学習できるようにしている。 学習過程の中で，考えたり判断したりする活動を多く取り入れ，思考力や判断力を育成できるようにしている。	●手指や腕の運動については，低学年の硬筆では指でなぞる活動を繰り返し設定し，毛筆では3年 p.6 で腕全体を動かすことに注意を促している。 ●書き込み欄を設けて，学んだことをすぐに書いて確かめられるようにし，学習の定着を図っている。 ●中学年では主に文字の整え方について，高学年では主に読みやすい文字群の書き方について，考えるための課題を提示している。
(2)　主体的学習への配慮	見通しをもって学習できるように，学習の流れをわかりやすく示している。流れにそった学習を繰り返すことで，児童一人一人が学び方を身につけられるようになっている。 学習の展開の中で，適切な書き方について考える活動や，学習したことを振り返る活動ができるようにして，主体的な学習を促している。	●低・中・高学年それぞれ，各教材に共通した見出しを立てることで，学習過程がつかみやすくなっている。 ●全ての教材の最後に，振り返りの観点を明示している。
(3)　他教科・日常生活との関連	学校生活や他教科の学習の中での書字場面を設定し，そこでの適切な書き方を考えられるようにしている。また，日常生活のさまざまな場面で書写の学習が生かせるようにしている。	●学校生活との関連:新聞づくり（4年），学級日記（5年）など。 ●他教科との関連：動物の飼育（1年），算数のノート（4年）など。
4　創意工夫		
(1)　文字	硬筆・毛筆の文字は，小学生にとって学びやすい字形である。 高学年の多字教材では，文字の大きさや配列にも配慮がゆきとどいている。	●硬筆文字は，簡明な字形で，子どもにもポイントを捉えやすい。 ●毛筆文字は，筆使いがよくわかる書きぶりで，整えて書くためのポイントが捉えやすくなっている。
(2)　図版・写真	図や写真が的確に使用されている。また，児童に親しみやすい挿絵やカット，鮮明な写真を用いて，学習意欲を高めるようにしている。	●筆記具の持ち方など，細部示す必要のあるところには，大きくてわかりすい図が使われている。
(3)　デザイン・レイアウト	低・中・高学年それぞれの段階に対応した紙面になっている。	●見出しやアイコンを用いるなど，学習の流れとポイントが一目で捉えられるようにレイアウトが工夫されている。
5　印刷・造本		
(1)　印刷	文字や図版の印刷は，鮮明で見やすくなっている。	●用紙は，印刷効果が高く，筆写にも適したものが使用されている。 ●活字は，手書き文字に準拠した読みやすい教科書体を使用している。 ●効果的な色使いで，カラーユニバーサルデザインにも配慮されている。
(2)　製本	一年間の使用に十分耐えるものとなっている。	●児童が扱うのに危険はなく，十分な堅牢性をそなえた製本になっている。

三省堂